

学校名：渋谷区立渋谷本町学園中学校
 対象：第7学年
 授業者名：福守 久子

1 題材名

見つけ、感じ取り、描く～お気に入りの描こう～

2 対象学年と学習指導要領上の位置づけ

第7学年 A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、[共通事項]

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

知①対象の形や色彩などの性質や、造形的な特徴などが、感情やイメージにもたらす効果などを理解する。

技②対象を見つめ、感じ取った特徴をどのように表したいかを考えて、意図に応じて材料や用具を工夫して描く。

イ 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

発①対象を見つめ、感じ取った形や色彩などの特徴や美しさ、思いなどを基に主題を生み出す。
 ②画面全体と対象の部分との関係などを考え、創造的に構図や構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。

鑑①対象を描いた作品を互いに鑑賞し、様々な表現の工夫を共有し感じ取る。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

態表①対象の特徴や自分の思いを基に表現する学習活動に取り組もうとし、美術の創造活動の喜びを味わっている。

態鑑①造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとし、美術の創造活動の喜びを味わっている。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 ①形や色彩などの性質や、造形的な特徴などが感情やイメージにもたらす効果を理解している。 技 ①用具の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	発 ①対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、思いなどを基に主題を生み出している。 ②画面全体と部分との関係などを考え、創造的に構図や構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 ①造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 ①構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとし、美術の創造活動の喜びを味わおうとしている。 態鑑 ①造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとし、美術の創造活動の喜びを味わおうとしている。

4 指導観

(1) 題材観、分科会テーマとの関連

本題材は、大会テーマ「生き方につながる美術教育」に基づき、生徒が大切にしている対象を見つめ、形や色彩から思いを感じ取り、描くことで、自分自身を振り返らせる学習内容とした。具体的には、生徒自身の思い出が詰まった道具や、生徒が宝物としているお気に入りのものを絵の具で表現する学習を通して、自分の思いや存在を再認識し、そこから自分自身を大切にすることや、自分自身の

生き方につなげられるようにした。また、形や色彩の見方や感じ方、主題設定の仕方、意図に応じて材料や用具を工夫する力を身に付けることで、お気に入りを表現できるようにした。

分科会テーマ「ICTの有効活用」では、クラウド環境に保存した共同編集可能なデジタルワークシートを用いて、個人の学習目標や主題を設定させたり互いのワークシートを見合うことにより生徒が個人で考えを深めたり、振り返ったりする個別最適な学びと、お互いにアドバイスし合う、協働的な学びの場面を設定した。

また生徒の主体性を重んじ、毎回の授業での知識、技能等の解説を、事前に指名された生徒がタブレット端末を活用しながら行い、教師は補足説明を行うことで生徒の主体的な学びにつなげた。さらに教科書や美術資料集に基づき、必要な知識・技能を身に付けながら制作活動を進めた。加えてお気に入りのものをタブレット端末で撮影し、ものの見え方を確認したり、制作の記録に残したり振り返りシートの作成に補助的に活用する場面の設定を行った。鑑賞活動では、作品を互いに鑑賞し、見方や感じ方、どの部分がお気に入りかを伝え合い、形や色彩や作品に込めた思いを共有した。共通事項や既習事項を基に小学校の学習を振り返る場面を設定することで、中学校で学ぶ内容をより深められるように指導した。

(2) 生徒観

本校は小中一貫校であるため、小学校図画工作科との連携を日常的に行っている。そのため生徒の多くは、美術の創造活動に意欲的に取り組む態度が小学校時より育まれていると感じる。また、造形遊びや各種教材・用具との出会いを通して、意図に応じた用具の扱い方を身に付けている。さらに、本区ではGIGAスクール構想に先駆け、平成29年9月より区内全児童・生徒にタブレット端末を一人1台貸与している。そのため、生徒たちは小学校低学年時からタブレット端末を活用しており、全生徒が、タブレット端末を自ら工夫して活用できる程度の活用能力が身に付いている。しかしながら、図画工作科の学びから主題の設定や、共通事項に示されている形や色彩の性質や感情にもたらず効果、イメージを捉える経験を重ねていないところがあるため、それらを意図的に学習の場面に取り入れることを行っている。

(3) 教材観

本題材では、対象を見つめ、形や色彩から感じ取った感情やイメージから、見方や感じ方などを捉えられるようにした。形の捉え方や描き方、用具の扱い方や技法などは、生徒が主体となる説明の機会を取り入れ、美術資料集や教師の補足説明により学習を進めた。画用紙は、白画用紙と色画用紙を用意し、生徒がイメージする色彩の効果や、思いなどを表現できるように、自らの意図に応じて選べるようにした。タブレット端末は、対象の写真を撮影し、制作の過程に役立てたり、振り返りのデジタルワークシートに用いたりすることで、生徒が毎時間活用する場面を設定した。

用具・生徒…教科書、資料集、筆記用具、アクリル絵の具セット、お気に入りのもの、ファイル、タブレット端末

・教師…A4白画用紙、色画用紙、筆洗、スパッタリング用の網、タブレット端末、モニター、デジタルワークシート

5 題材の指導計画と評価計画(全10時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	対象を見つめ、感じ取った形や色彩などの特徴や美しさ、思いなどを基に主題を生み出す。	○対象を見つめ、感じ取ったことから、主題や学習の目標を設定する。 ・デジタルワークシートを基に、対象の形や色彩から特徴をとらえ、主題や学習の目標を設定する。	知① (デジタルワークシート、授業観察)	発① (デジタルワークシート、授業観察)	
第2時 ～ 第9時	対象を見つめ、創造的に構図や構成を工夫し、意図に応じて材料や用具を工夫して描く。	○対象を見つめ、構図や構成を工夫したり、材料や用具を工夫したりして描く。 ・対象を直接見たり、タブレット端末のカメラ機能を活用したりすることで対象の特徴を捉えて、画用紙に描く。 ・材料や用具を工夫して、主題を表せるように描く。 ・学習や制作で身に付けたことや工夫したことを、デジタルワークシートに記録し、クラスで共有する。	技① (デジタルワークシート、作品、授業観察)	発② (デジタルワークシート、作品、授業観察)	態表① (デジタルワークシート、授業観察)
第10時	楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を広げる。	○互いの作品を鑑賞し、よさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、共有する。 ・クラス全体で作品を自由に鑑賞した後に、班で互いの作品についてデジタルワークシートを活用して、意見を述べ合い、交流をする。 ・見取ったことや感じたことを、デジタルワークシートに記入する。		鑑① (デジタルワークシート、授業観察)	鑑① (デジタルワークシート、授業観察)

6 指導に当たって

「ICTの有効活用」を実現するために、次の取組を行った。

- ・デジタルワークシートをクラウド環境に保存し、同時編集を可能とすることにより、個に応じた指導の充実や、多様な意見を共有し合意形成を図る活動の場面を設定した。それにより個別最適な学びと協働的な学びを実現した。
- ・デジタルワークシートの半面を振り返りシートにし、写真画像等を用いた学習の記録を残せるようにした。
- ・生徒が技法や用具の扱い方を発表する際に、スライド等を活用するように指導・助言を行った。

7 発表を終えて

第3分科会「ICTの有効活用」の発表を終えて、会場から次のような質問があった。

質問 生徒が、自分で調べた内容を発表し他の生徒と共有することは、他学年でも行っているのか。

回答 他学年でも行っている。8学年は和菓子樹脂粘土で制作する題材で、和菓子の歴史等について、9学年は鑑賞題材、北斎からゴッホへについて調べ学習を行った。

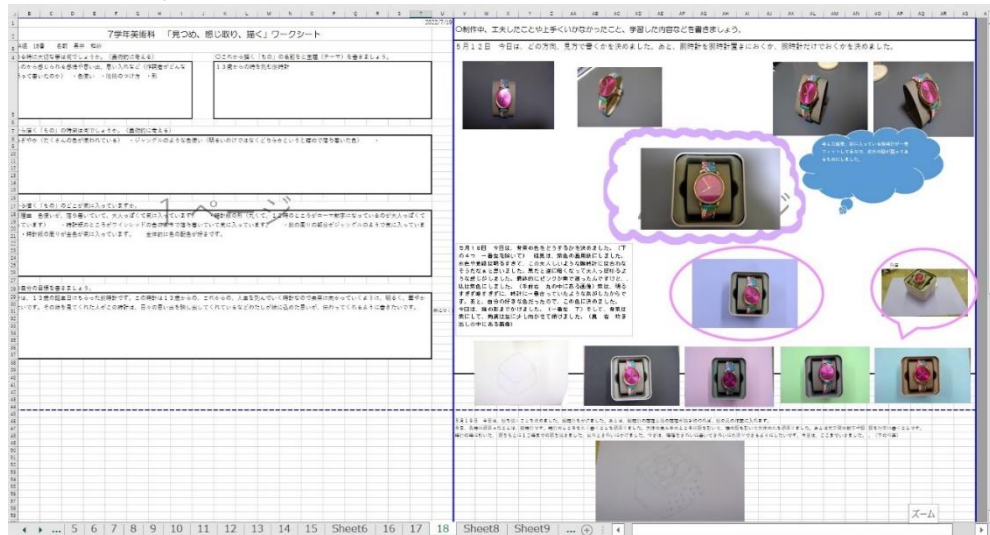
質問 デジタルワークシートを共有し、他の生徒も閲覧出来ることは良いことだが、生活指導面の問題は無いのか。また、他の生徒のワークシートに、生徒がアドバイスを書き込むことはあるのか。生徒の反応はどうか。

回答 本校は、比較的生徒が落ち着いていることもあり、デジタルワークシートの共有による生活指導上のトラブルは無い。生徒が他の生徒のページにアドバイス等を書き込む取組は、協働的な学びにつながるので今後行ってみたい。デジタルワークシートの共有は、生徒からも好評である。

上記の質問を受けて、発表を聴いた人の多くが、渋谷区の研究発表に関心を抱いたことが分かった。また質問内容から、デジタルワークシートの共同編集や、生徒を主語にした学びに取り組んでみたいという意欲を感じた。指導助言として、品川区立富士見台中学校、石黒 晋校長先生から、クラウド上でデータを共有することや、ICTを活用して生徒を主語した学びを展開することの意義について、ご講話頂いた。指導助言の内容からも、渋谷区の研究内容を肯定的に捉えられていることが感じられた。

この発表を終えて、研究を進めてきた「ICTの有効活用」を、今後更に磨きをかけていくことを改めて決意した。そして、この研究内容を自分自身や渋谷区の中だけに終わらせず、多くの授業で活用出来るものとしていきたい。「ICTの有効活用」は新しい学びに不可欠な要素であり、効果的に活用することで更に「生き方につながる美術教育」を実現し、生徒の生きる力を育てていきたい。

デジタルワークシート



参考作品



学校名：世田谷区立東深沢中学校
 対象：第3学年
 授業者名：倉橋 理沙

1 題材名

息を呑むほど素敵な川沿いの緑道に！

2 対象学年と学習指導要領上の位置づけ

第3学年 A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)イ(ア)、[共通事項]

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

知①対象や事象を捉える造形的な視点について理解することができるようにする。

技②材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。

イ 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

発①目的や条件などをもとに、使用する人の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ることができるようにする。

鑑②身近な環境から造形的な美しさを感じ取り、生活や社会を豊かにする美術の働きについて考えることができるようにする。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

態表①構想を練ったり、意図に応じて創造的に表したりする学習活動に取り組むことができる。

態鑑②社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどの活動に取り組むことができる。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>知①形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや空間や機能などで捉えることを理解している。</p> <p>技①材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創意工夫して、創造的に表している。</p>	<p>発①目的や条件などをもとに、川沿いの緑道を使用する人の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑①身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導観

(1) 題材観、分科会テーマとの関連

題材と学習指導要領との関連

本題材は親しみのある地域、道について空間や通る人の立場に立った木庭や心情、安全性などを基に主題を生み出し、多くの人が共通して感じる造形的な美しさとの調和を総合的に考えて、構成を考えながら発想し、構想を練り表現する内容である。中学校学習指導要領 美術（平成 29 年 3 月告示）第 3 学年 A 表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)、B 鑑賞(1)イ(ア)、[共通事項]を受けて設定した。

学校内ではなく「地域」に視点を広げることで、通学や生活などを振り返り、客観的な視点をもって広い視野で総合的に考える。社会との関わりや地域の人の立場となって、人々の暮らしを彩るために、人々がどのようなものを望んでいるのか、などを深く考えながら発想や構想をする。さらに、緑道を通る人の思いや社会との関わり、遊び心などから生活を豊かにする視点を持ち、さまざまな角度から捉え、主題を生み出すことができるようにする。また、主題を基にして材料を選択する必要もあるため、材料の性質を理解し、生徒が考えた目的などを表現するための材料の性質や感情にもたらず効果などを理解することができるようにする。粘土だけではなくさまざまな材料を使用することで見た目だけでなく質感などの中身にも意図を持って制作することができるようにする。

発想や構想したことを基に、自分の表現を追求するために、鑑賞の活動を取り入れ制作の参考にすることや、材料や用具の活かし方を工夫するなどの活動を取り入れる。鑑賞の活動では、日本や世界にあるパブリックアート作品を鑑賞し、多様な表現を参考にすることで、具体的な表現方法や自分の意図に合った表現をするために材料や用具の特性を理解し、追求することができるようにする。そして、よりよい表現のために試行錯誤することができるように、「理想の世界」というものについて生徒自身が毎回の制作の中で考え、自分の表したいことを見つけることができるようにすることや、材料を絵の具以外にも幅広く設定することで、今までの経験からさまざまな材料の特性を生かし、豊かな表現に挑戦することができるようにする。

分科会テーマ「ICTの有効活用」との関連

生徒が使用している学習用タブレットを「構想」「鑑賞」「毎授業の振り返り・見直し」などに活用していく。構想を練る活動には、アイデアスケッチなどで考えを整理することが多いが、学習用タブレットを使うことで、描いた線のやり直しや、直線などの図形、さまざまな色彩、調べ学習による参考資料などを使うことが可能になり、新たな発想などが生まれやすく、生徒自身が表現したいことを整理しやすくなると考えられる。鑑賞の活動には参考資料となるパブリックアート作品などをタブレット上で見ることで拡大などを行うことが可能となり、さまざまな見方や考え方をより深めることができる。また、データを共有することが可能なため、鑑賞の活動で感じたことや、毎授業の振り返りなどを生徒同士で共有することで、多くの考えに触れることができる。ICTを有効的に活用することで生徒がさまざまな見方や考えに触れ、よりよい作品制作のために主体的に活動することができるように指導する。

(2) 生徒観

本校の生徒の多くは美術の活動に意欲的に取り組んでいる。第 1 学年では粘土を用いて身近なものをそっくりにつくるという内容を通して、扱い方や粘土ならではの表現方法やそのほかの材料の効果的な使い方について考えながら制作に取り組み、立体制作のさまざまな角度からの見方などについても学んだ。第 2 学年ではピクトグラムを制作する内容を通して、自分が伝えたいことと、他人が必要としていることを考えながら作品を試行錯誤し制作に取り組んだ。

「ICTの有効活用」については、本校の生徒は第 1 学年の 3 学期から学習用タブレット端末が導入され、授業の中で積極的に活用しているため、生徒は学習用タブレット端末の基本的な操作を確実に行うことができる。紙に描くよりも端末上で描くことを得意としている生徒もいる。

目的に対してさまざまな視点から考えを深めることや、作品に対して多角的な見方で考察することなどについては得意としている生徒が多い。しかし、自分が発想・構想したことを表現するための理想が高く、他者からの評価を重く考えすぎて自分の作品に対してとても慎重な姿勢になってしまうことが多い。さまざまな材料の特性などを生かして表現の面白さや豊かさに気づき、自分の作品に取り入れようとする姿勢を身に付けることができるようにしたい。

(3) 教材観

本題材では、学校外の地域や社会に目を向けて、地域の道にアート作品をどのような目的で配置するかを考え制作することで、作品だけではなく普段の生活の中での見方や感じ方を深めることができるようにした。目的の設定は生徒自身が地域の一員として、地域にどのようなことが必要とされているか、より良くするにはどうすればよいかをさまざまな視点から考える。粘土を使って立体作品を制作することで、平面的にではなく広い視点から見つめ、それぞれの角度からの表現を目的と合わせて考えながら、材料の特性を生かし追求することができるよう工夫する。また材料を粘土だけに制限せずに、画用紙やビーズなど幅広く材料を使うことができるようにすることで、質感による感じ方の違いや、新たな発見に気づき、生徒自身が表現の活動に楽しく取り組むことができるようにする。

学習用タブレットを使って、地域の写真と自分の作品を組み合わせることで、ただ作品をつくるだけではなく、自分の作品と地域との関わりをより実感することができるようにする。また、毎授業の制作状況を写真に記録し、振り返りと次回への見直しを持つ機会を設けることで、生徒自身が毎時間どの程度進んだのか制作を振り返ることが可能となり、次回への制作に目標をもって取り組むことができるようにする。学習用タブレットを活用することで、生徒間で感じたことなどを共有することが可能となり、新たな発見や気づきから発想を広げることができるようになる。

【材料・用具】

教員：粘土（石塑粘土）、粘土板、土台、粘土ペラ、やすり、ペンチ

生徒：学習用タブレット、スケッチブック、絵の具（ポスターカラー）、個人で使いたい材料（針金やビーズなど）

5 題材の指導計画と評価計画(全12時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	パブリックアートの効果について考える	○パブリックアートがあることでどのような効果を与えるか考える ・パブリックアートがあることで生まれる効果を考え、 <u>自分の考えを学習用タブレットにまとめ、他の人の意見と共有する</u>	知① タブレット上の提出物	鑑① タブレット上の提出物	態鑑① タブレット上の提出物・観察
第2時	制作の目的を考える	○どのような目的でパブリックアートを制作するか考える ・パブリックアートがあることで生まれる効果を基に、制作の目的を考える ・目的を考えたいうえで、 <u>そのためにどのような形や色彩にするか、学習用タブレットや紙にスケッチしながら考える</u>		発① タブレット上の提出物	態表① タブレット上の提出物・観察
第3時	アイデアスケッチを行う	○目的のためにどのような材料や形にすると良いか具体的に考える ・目的に合うようにスケッチブックにアイデアスケッチを行う ・ <u>学習用タブレットでアイデアスケッチを撮影し、色を塗るなどして具体的にイメージをふくらませる</u>		発① タブレット上の提出物	態表① タブレット上の提出物・観察

第4時～ 第8時	パブリックアートの模型を制作する	○自分の表現と照らし合わせながら、制作の手順や扱う材料を考える ・地域との関わりを考えながらパブリックアートの模型制作する ・学習用タブレットで作品を写真に記録し、毎時間の振り返り、次回への課題を考えまとめることで、今後の作業につなげる	技①作品	態表①タブレット上の提出物・観察
第9時	お互いの作品を見て、目的を確認し、今後の作業につなげる	○第三者目線から作品を見ることで、制作者の目的と実際の見えている効果を比較する ・作品を並べ、作品から受ける感情を伝え合い、自分の目的と合っているか確認する ・結果を元に作品に工夫を加える ・学習用タブレットで作品を写真に記録し、他人からの感情を受けての振り返り、次回への課題を考えまとめることで、今後の作業につなげる	発①鑑① タブレット上の提出物	態鑑①タブレット上の提出物・観察
第10時～ 第11時	パブリックアートの模型に着色する	○他人から見た作品の効果と自分の目的を比較し、より自分の目的に近付けるためにはどのような工夫を加えればよいか考える ・自分の目的、他人から見た作品の効果などを参考に作品に色をつけ、さらに作品の完成度を高める ・学習用タブレットで作品を写真に記録し、毎時間の振り返り、次回への課題を考えまとめることで、今後の作業につなげる	技①作品	態表①タブレット上の提出物・観察
第12時	パブリックアートの資料を制作する	○実際に地域に自分の作品が設置されたことを想定し、作品に込めた自分の思いや工夫を振り返る ・自分の目的、他人から見た作品の効果などをもとに、地域に自分が制作したパブリックアートを設置する資料を制作する	技①作品	態鑑①タブレット上の提出物・観察

6 指導に当たって

- ・地域の道を対象にすることで身近なものとして考え、実際に地域に自分の作品が設置された時の効果や関わりについてより深く考え、見方や感じ方を広げることを期待する。
- ・自分の表現したいものをただ制作するだけでなく、鑑賞などを通して他人の感情や行動が入ることによって発見できる材料の特性や効果を感じ取ることができるよう指導したい。
- ・自分自身で地域に作品を置くことの効果について考え主題を生み出し、目的に向かって自分の考えだけでなく生徒同士の見方・考え方を取り入れ制作することで、自らの作品をより良くし、さらに地域について考え高め合うことを指導したい。

7 発表を終えて

研究協議の様子からICTについては、どのように活用すればよいか悩み、使うことをためらう人も多くいるように感じた。ICTの活用で表現の幅がより広がり、これからを生きる子どもたちの力にもなると考えられるため、今後も様々な活用事例を検討し、発信していきたい。

第三分科会

ICTの有効活用

発表者 福守 久子（渋谷本町学園中学校）

倉橋 理沙（世田谷区立東深沢中学校）

助言者 石黒 晋（品川区立富士見台中学校長）

記録者 並木 英和（世田谷区立瀬田中学校）

「ICT活用で子供を主語にした学びについて」福守 久子

1 発表者から

美術教育に求められていることは何か。学習指導要領の目標は改訂されました。さらに、個別最適な学び・協働的な学び・主体的・対話的で深い学びなど令和3年の答申を受けて授業を考えました。

「見つめ感じ取り描く・お気に入りを描こう」では、作品「使い古した陸上の友」中学1年生（第7学年）アクリル画A4などを制作しました。生き方につながる美術教育に取り組みました。気になっている物を認知し自分を知り深く見つめさせ、今後の生き方に影響を与えると考え研究すすめました。そして、個別最適な学び・協働的な学びを実現するために、デジタルワークシートの活用（チームズ）をしました。クラウドに保存し学級で1ファイルを共有しました。ふりかえりも兼ねるデジタルワークシートで思考を整理させ記入し写真を複数投稿（1年間のポートフォリオとして活用）させました。また、生徒に調べ学習・プレゼンテーションをさせることで協働的な学び（例 筆の使い方）につなげています。

2 参加者から

【質問】他の学年でも、生徒が説明しているのか。

【回答】班ごとなどでも、和菓子について調べて、発表し共有している。

【質問】デジタルワークシートについて、他の生徒のシートには書き込みはできるのか。

【回答】できますが、書くように指導していない。閲覧はしている。

【質問】指導で活用しているのか。

【回答】授業での声掛けに活用している。

『息をのむほどの素敵な川沿いの緑道に！』倉橋 理沙

1 発表者から

パブリックアートに取り組みました。ICTを活用して地域に設置してあるよう表現する方法を考えた。生徒はパブリックアートをおくとしたら、「どこに置くか」「安らぎ」「憩い」などの目的にして取り組んだ。生徒作品の紹介「川の流れを生かした作品」など。ICTを活用し動画で制作方法を提示した。動画の内容は①iPadで作品を撮影②グーグルマップのストリートビューで設置場所を撮影③背景をアイビスペイントで透明化④写真アプリに保存⑤ロイロノートに取り組み画像を組み合わせ完成。

アイデアを考える際には紙とタブレット上で色をつけイメージを膨らませ記録することでふりかえることができるようになった。

ロイロノートの活用で、色などの比較、教員や生徒同士で共有しイメージをより膨らませることができました。

毎回の記録を残すことで制作過程を確認することができました。次回への課題など制作の目的の再確認をするなど活用できました。

評価については、まとめ資料を制作させています。目的、工夫点、感想や写真をまとめさせています。

2 参加者から

【質問】ふりかえりの制作カードは何を使用しているのか。

【回答】ロイロノートで制作しています。

【質問】ほかに制作カードをつくり蓄積しているのか。

【回答】制作しています。

3 助言者から

I C Tと感想 福守先生の学校は小中一貫校なので、小学校から指導ができる。

他の学校より2年くらい早く、1人1台のタブレットが導入されているので、ノウハウがある。

題材の選定について、身近な題材から選ぶことで主体的に取り組むことができるまた生徒が他の生徒に用具の使い方などを教えることで、どう話したら上手く伝えられるか考えるようになる。

倉橋先生の題材は地域性・公共性があるのでI C Tを取り入れることが適している。

呑川緑道にパブリックアートを制作する課題は、パブリックアートは身近にあり生徒も取り組みやすく、I C Tの活用で以前より短い時間で取り組むことができる。

美術の授業では、I C Tの活用項目ですが、ある調査では活用率は2～3割。活用率が高くない理由は、活用法・評価の設定・作品の制作が優先・生活指導上の問題など。ギガスクール構想の再確認として、日本型学校教育・個別最適な学び・探究的・地域との連携・持続可能な協働的な学びがなぜ求められているのか考えることが必要で、現在、試行錯誤が行われている。本日の2名の授業はI C Tを使う場面が適切で使用の仕方が進んでいる。クラウド型の授業支援システムの活用・他の生徒の意見を知ることができる・生徒は次の変容を考えることができる。さらに工夫して欲しい。以前は紙に制作意図を書かせていたが、今ではクラウド上でできる。そこで、美術の授業では、单元ごとに、どの場面でI C Tの活用をさせるのか担当する教師が考える必要がある。これからもツールとして有効活用として事例を出していく必要がある。また、どこを評価するなど、授業のデザインをしていく必要がある。